

「コロナ禍における JICA 海外協力隊」の取組

1. 方針

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い一時帰国した隊員、派遣を延期した隊員及び訓練前の合格者（以下、「隊員等」）に関し、日本国内での取組を以下3つの柱に基づき推進します。

この取組では、隊員等の利他的なエネルギーを国内課題解決に活用する機会、又は、隊員活動や自身のキャリアにとって役に立つ機会を得つつ、隊員経験の社会還元実践の機会とします。

2. 3つの柱

柱1 国内課題解決への貢献

自治体、NGO 等各種団体、民間企業等国内各地からのニーズに応じ、隊員等が主体的に活動しています（仕事、インターンシップ、ボランティア活動等様々な形態での案内を提供）。

【実践例】



長野県南佐久郡南牧村、川上村、佐久穂町、伊那市のレタス農家を支援。モルディブ、モザンビーク隊員ら 30 名が参加。（農業支援）

出典：2020年6月23日 長野中日新聞



静岡県藤枝市の水車再稼働プロジェクトを地元出身のヨルダン、パラグアイ、タンザニア隊員らが支援。（地域活性化）

出典：2020年6月26日 静岡新聞



香川県の中小企業に勤める外国籍労働者に対し、インドの日本語教育隊員が日本語教室を実施。（外国人支援）

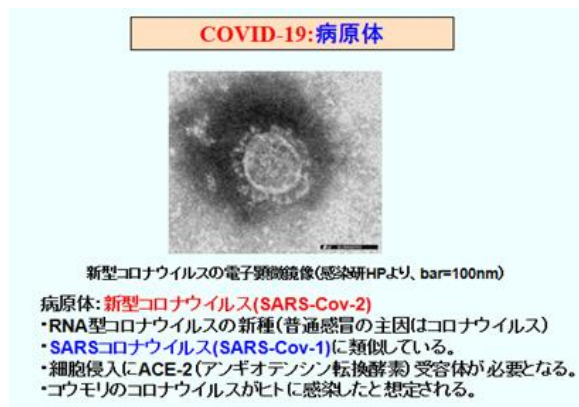


ウガンダ看護師隊員が、新型コロナ対策の相談窓口で活動中。妊産婦対応のためのリンク集も作成。

柱 2 自己研鑽支援

協力隊経験者、NGO や大学等と連携して、専門技術や語学能力の向上を目的とした研修等の機会を提供し、今後の任国での活動や社会還元活動に役立てます。

【実践例】



課題別セミナー (延べ 48 回 780 名参加)
写真は保健医療隊員向けセミナー「グローバル感染症」のスライド。他感染症との比較における COVID-19 の特徴や最新情報を解説。



待機中隊員数十名が国際大学にて短期研修を受講。協力隊経験の社会還元方法、将来のキャリアを考える。(人材育成)

柱 3 途上国支援の継続及びポスト・コロナに向けた検討

任国に対する活動を継続する。好事例から学び、ポスト・コロナに向けて事業改善を図ります。

【実践例】



一時帰国中の日本語教育隊員が、ブラジルの日本語学習者向けにオンライン授業を実施。(遠隔活動)



東京五輪出場予定のケニア女子代表チームを支援するバレーボール隊員。練習動画を送ってもらいアドバイスするなど、活動を継続。(遠隔活動)